

ひきこもりの子どもを抱えた親の 特徴

「強迫観念的態度」

「二者択一的態度」

「現状否定的態度」

「コントロール的態度」

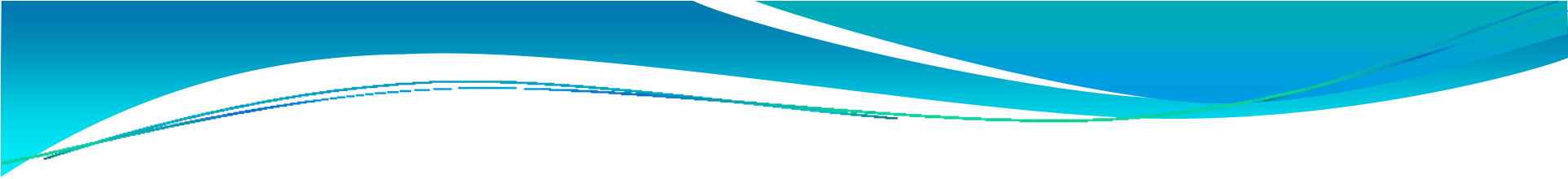
「自他境界混乱的態度」



こういった親の行動修正に必要な
のは、学習ではない。



行動修正のための
レッスンはグループ
ミーティングに継続
的に出席する。(=鏡
を見て身だしなみを
整える)



「私は、これまで子どもに“勉強しなさい”とか“部屋から出て、仕事を探しなさい”などと言ったことはありません。それなのに、子どもは元気がなく部屋にひきこもっています。」



メタメッセージ

と

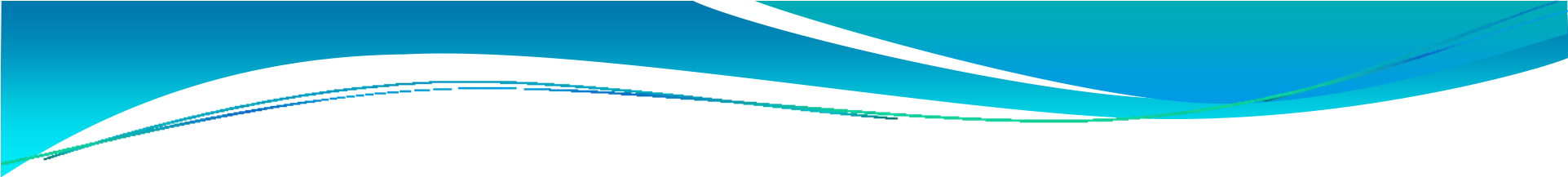
ダブルバインド



世代間を連鎖する暗黙のメタルール



親戚中が国公立大学卒業、親戚中が公務員



「私の家はごく普通の家庭で、夫の家系も、私の家系も普通です。」



よそ様と異なることをとても恐れていることが多い。つまり、他人と違っ
てはいけない。目立ってはいけないとい
うことがメタルールになっている

不登校の子どもを抱えた親たちの家族交流会

◎家族交流会とは

不登校・ひきこもりの子どもを抱えた保護者の自助グループ

◎実施主体と実施時期

2008年12月から定例で実施。現在、毎月5～10名程度の保護者が参加している。毎月第4土曜日に大学施設内で実施。参加費は無料。ただし、託児を利用する場合は100円／人を自己負担。

◎家族交流会のルール

参加者の発言に対して、聞きっぱなし。自分のことを言っぱなしというルール。他の参加者にアドバイスや説教はしない。

ここで得た情報は、部外秘であるという一般的な自助グループのルール。

◎家族交流会の実施形態

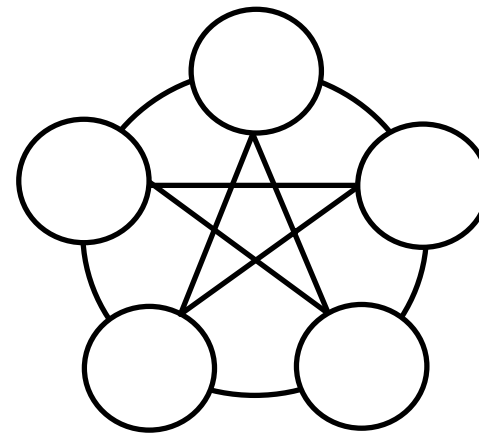
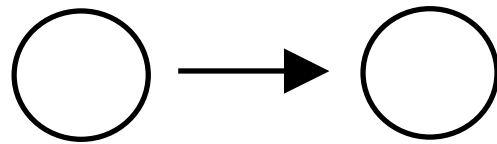
コーディネーター

教員スタッフが中心となり、将来養護教諭、保健師、精神保健福祉士等に就職希望の学生が司会役となる。参加者が順番に、自分の不登校のお子さんのことを自由に語ってもらう。

セルフヘルプグループ (Self-help Group)

専門家による治療ではない

同じような苦しみや悲しみを経験したり、問題を抱えている人々が、互いを理解し、助け合いながら、それぞれの問題の解決を目指してゆく活動のこと



苦しみや悩みの解決の従来的な解決方法; 治療者 対 クライアント、ピア

セルフヘルプグループの一般的なルール

「言いつぱなし聴きっぱなし」のルール

参加者の発言に対して「批判」や「説教」や「アドバイス」はしない。発言者の発言には傾聴ということが求められる。

セルフヘルプグループには、もともと治療者とクライアントという関係の考え方はありません。参加者は、皆同じ仲間です。ですから、理解し合える仲間同士が、互いの気持ちを受け入れあうという姿勢が大切です。

「ここで話したことは、ここだけの話とする」(他では話さない)のルール

参加者の悩みやプライベートな話は、この会だけの話として聞いてあげること。

回復した人は、次の人のために情報を共有する

A.A.で主にいわれていることで、次の人を手助けすることが、結果的には自分を助けることになる。(同じ問題が再燃することを避けることになる)という考え方。

家族交流会の意図すること

まずはあなたが変わる～そのための家族交流会

家族交流会に参加すると、自分と同じような悩みを抱えている仲間と出会うことができます。そのことが、専門家以上の支えになります。

無理に変わろうと必死になる必要はありません。

まずは、仲間の話を聴く(傾聴する)だけでも変化が生まれます。

自分の息子・娘の問題から少し距離を置く時間ともいえます

たまには、家族の話ではなく、趣味や自分のこれからの人生のことを話してみませか。

家族の話、自分の話をするとき、主語に気をつけて話してみましょう。

仲間が理解しやすいように、今話そうとしている話題は、誰のことなのか？

「私の夫は、……なんです。」「私の息子は、……のことが多い。」

「私は、……で苦しい。」(自分と他者との境界設定を意識してみる)

共依存概念について

◎健全人にも見られる特性のもの

秋山真奈美、時田学「共依存傾向の質問紙に関する因子分析的研究」、1996年

O'Brien, P.E. & Gaborit, M. Co-dependency: A disorder separate from chemical dependency, 1992

◎自己愛の障害など5つの中核概念

「自己愛の障害」「自己保護の障害」「自己同一性の障害」「自己ケアの障害」
「自己表現の障害」

Mellody, P. "Facing Love Addiction", 1993、四戸智昭「共依存の構造とスケールに関する研究」、1998年

◎固着した関係性: 関係性そのものが嗜癖対象

共依存の人とは、生きる上での安心感を維持するために、自分が求めているものを明確にしてくれる相手を、一人ないし複数必要としている人間

Anthony Giddens "The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies" 1992.

母と子どもとの圍着した關係性の例 (コインの裏表)

M 母の子どもに対するコントロール行動

- ▶アイスを買ってあげることで、学校に行かせようとする
- ▶子どもを引きずって学校に連れて行こうとする行為
- ▶学校に行かせようと、子どもの友人たちに家に遊びに来てもらうように頼む

C 子どもの母に対するコントロール行動

- ▶アイスが欲しいので、学校を休むという行為
- ▶拗ねるという行為で、母の笑顔を引き出す行為
- ▶ひきこもるという行為で、母を静かにさせる行為

母と子どもとの固着した関係性の図式

母の支配

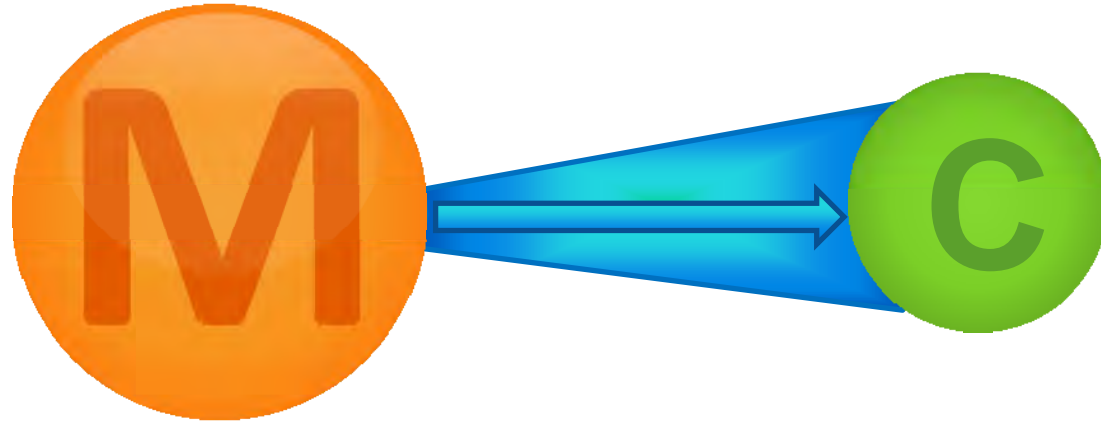
子どもの服従



母の服従

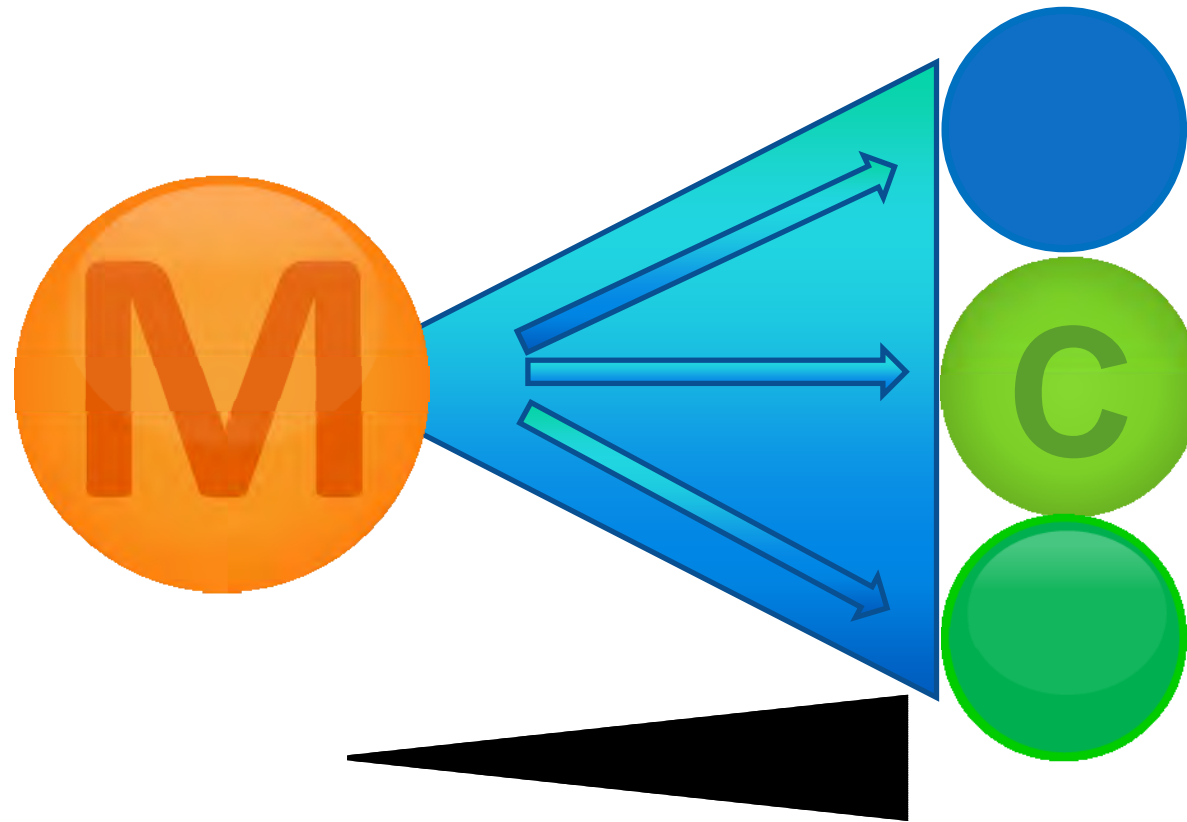
子どもの支配

母の世界観



- 外界から閉ざされた
- < 隠蔽 (いんぺい) > された世界
- 子ども以外に選択肢がない世界
- 子どもが学校に行く以外に自分の存在意義を見いだせない状態

ミーティングによる変化



他者との出会いによって子ども以外の世界があるという気づき

母と子どもが開かれた関係

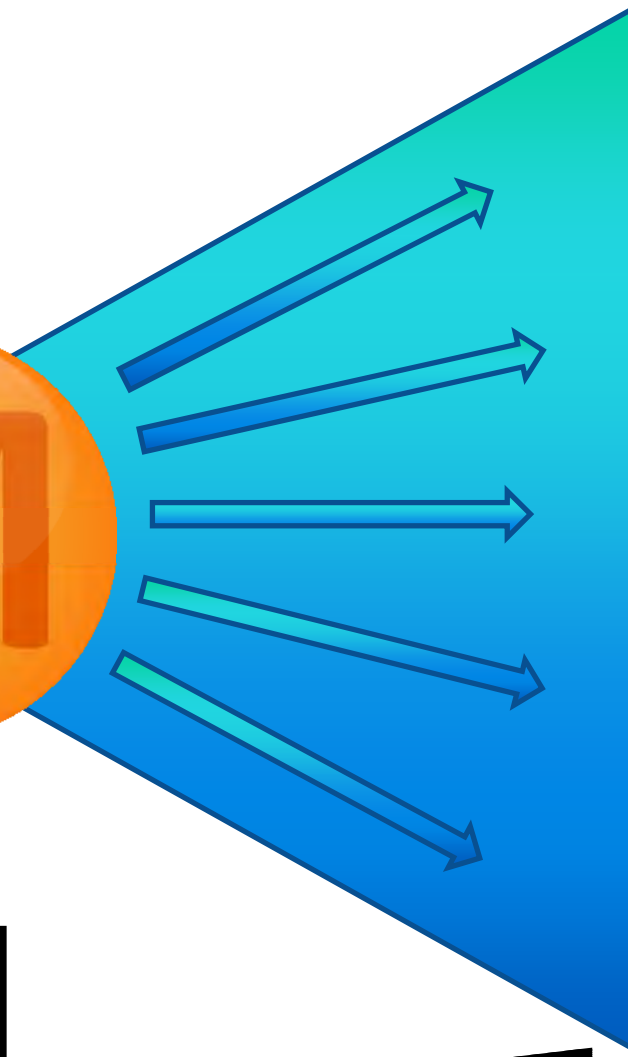
自分のためだけにお金と時間
を使うという宿題

自己の欲求に気づくこと。

他者との境界を
自覚

開かれた世界

学校に無理には行かせたくな
いという自分がいることの自覚



開
か
れ
た
関
係

ミーティングでの再帰性

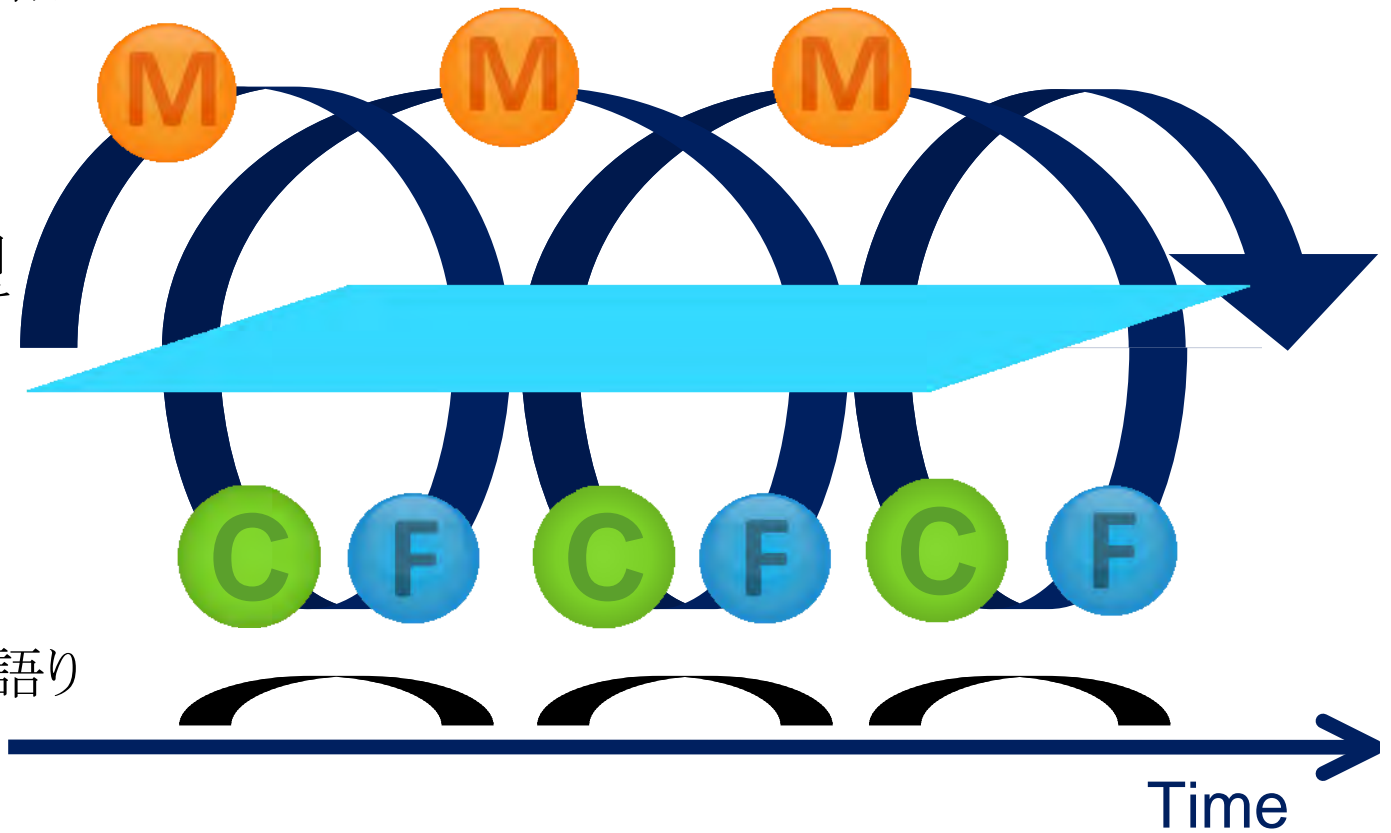
Groupミーティングの語り



現実に反映していく自己・それに影響を受ける父や子



Groupミーティングの語り



不登校の子どもを抱えた親の5つの課題 とミーティングによる変化(成長)

参加初期	参加後期
<p>話題の中心が子どもの不登校のこと。 (強迫観念的態度)</p>	<p>自分自身の将来や趣味の話題が出てくる。(興味関心の広がり)</p>
<p>とにかく学校に行かせたい。そうしないといけないと思う。 (二者択一的態度)</p>	<p>実は、学校を休んで家にいてくれる方が安心している自分がいる。 (選択肢の広がり)</p>
<p>自分の育て方に対する非難。子どもの態度に対する非難。 (現状否定的態度)</p>	<p>このまま不登校でも構わないという現状を肯定する態度 (現状受容態度)</p>
<p>子どもへの過剰な世話焼き、この子どもの親に対する依存的態度。 (コントロール的態度)</p>	<p>遠くから見守る。子どもの成長を時間的に追うことができるようになる。 (非コントロール的關係)</p>
<p>家族の話をするときに、家族関係の境界が曖昧。 (自他境界混乱的態度)</p>	<p>子どもと親の境界、夫婦の境界が意識化される (他者との境界を意識)</p>